

中国浙江省・温州の発展は、自由な民意と、緊密だが一部ランダムな人々の関係のつながり直しがもたらした。米国で今評判の「スモール・ワールド」ネットワーク理論は、この現象をよく説明し、広い汎用性を持つ。日本もこうした理論への理解を深め、経済再生に生かすべきだ。

温州の「外出人」 伊皮革業に学ぶ

中国浙江省の温州は、かつて最貧地域の漁港だった。だが一九七八年の「改革開放」以来、同地で民間企業が急成長したばかりでなく、二十万人の温州人が欧州に滞在して、皮革業、服飾業を中心にネットワークを築き上げ、繁栄をおう歌している。人、物、金が、彼



経済教室

ら「外出人」と故郷の間を行き交い、国内でも、温州人が日用品の商人として地方を巡り、遠い地域間で、供給者と市場を新たに結び付け、商業的成功を収めている。

その結果、経済成長率、一人当たり総生産、所得、社会資本投資、財政収入などで、温州の成長は飛躍的であり、中国の平均をはるかに超えた。

中国浙江省・温州 急発展のカギ

脱日常のネットワーク

寄せる。販路が増すと、故郷からもう一人親戚を呼び寄せ、さらに半年後には、パリから同郷の革

アを中心に温州「外出人」ネットワークが急速に広がった。ファッションの発信地ミラノでは、高級店から土産物屋まで、店頭から土産物屋まで、温州出身職人の手で作られるという。さらに現地で経験を積み、欧州最高の技術、ファッション、経営管理、マーケティングを習得した若者の多くは、温州に戻って自社工場を立ち上げ、革製品や服飾品を安い労賃で大量

経路全体が活性化

日本も経済再生に生かせ

生産し、国内外で売りまくって急速な資本蓄積を行っている。

くじ発行で金を集めたという、強いニーズから生まれてきた。この過程で、通常はなかなか起こらない、人々の関係のリワイヤリ(つなぎ直し)が急速に起こり、あつという間に目的を達成したのである。これら多様なネットワークの、どの一点に

職人を引き抜く。一年後には、職人が十人を超え、二年後には、のれん分けを含め、五、六軒の同業者が同じ通りに店を構える。そして三年後には、街中に数十軒もの温州人同業者が軒を連ねるようになる。

このようにして、皮革業や服飾業では、イタリ

し、官民共同で行われていた。ところが、近年の温州の経済発展は、それに合わせたインフラ整備を必要とし、北京に期待で

た。ところが、近年の温州の経済発展は、それに合わせたインフラ整備を必要とし、北京に期待で

も、中核を特定できない、分散したトポロジー(構造、形態)を持つ温州人ネットワークは、歴史の偶然性の中で創発した。

地縁や血縁と「遠距離交際」

温州現象をよく説明する理論がある。今、米国で評判の、グラフセオリー(万物の関係を点と線で表す数学理論)を用いたダンカン・ワッツの「スモール・ワールド」ネットワークだ(図)。三つのネットワークA、B、

西口 敏宏

一橋大学教授



ワッツによれば、これら三つのネットワークは、特有の振る舞いパターンを示す。Aは一見秩序立って見えるが、ある一点から、遠くの点に情報伝達しようとする

第三は、人の認知限界と資源の制約を超える繁栄の秘けつは、ネットワークの「スモール・ワールド化」にある。通常、結びつかない結節点を求めて、ランダムでよいから、長い経路のリワイヤリングを、脱日常的な、知見に基づく、温州経済の急発展は、血縁や地縁といった強いつながりで支えられる一方、その機会探索と情報伝達においては、遠く欧州などにも大胆な経路のリワイヤリングをすることで、通常流れない、遠くの情報が一挙に流れ、ネットワーク全体が活性化した結果だと解釈し得る。

織論

52年生まれ。オックスフォード大博士。専門は組

